

金属加工
メーカー

トピー工業株式会社

所在地 / 品川区大崎1-2-2 アートヴェレッジ大崎セントラルタワー
TEL.03-3493-0141 <https://www.topy.co.jp>
設立 / 1921(大正10)年10月 従業員数 / 1,767名、グループ全体5,340名(2025年3月末時点)



もっと、くわしく
見てみよう!

? トピー工業はいつからモノづくりを行っているの?

100年以上にわたって、暮らしと社会を支えるモノづくりを続けています

私たちは、自動車のホイール(タイヤを支える車輪)や建設機械の足回り部品、ビルや建物を支える鋼材をつくらしている金属加工メーカーです。国内最大級の200t電気炉で鉄をつくり、高い技術力でさまざまな金属加工製品を生み出しています。さらに、この電気炉の技術を活用して化粧品の素材もつくるなど、幅広い分野で事業に取り組んでいます。



本社

? 具体的にどんなものをつくらしているの?

自動車用ホイールや建設用鋼材など社会に欠かせない製品をつくらしています



製品① スチールホイール

自動車のタイヤを支える鉄でつくられた、円形の部品です。とても丈夫なため、たくさんの荷物や人を運ぶ自動車に使われ、私たちの暮らしや仕事を支えています。私たちは、この製品を約100年前からつくり続けています。



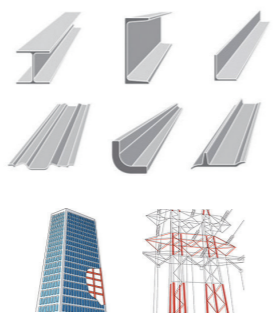
ホイールの役割

ホイールは、タイヤと組み付けた上で自動車へ取り付けられます。タイヤを固定して回転させることで、直進や曲がる時の安定性を保つ役割があります。見えにくい場所で、自動車の安全な運転を支える大切な部品です。



製品② 履帯

工事現場で見かける、ショベルカーやブルドーザーなどの足回りに装着される、ベルトのような形をした「履帯」を製造しています。これにより、でこぼこした地面でも安心して走行できます。



製品③ 形鋼

ビルなどの建物、鉄塔、船、鉄道車両などの材料に使用される鋼材です。私たちは、左右非対称の形状を持つ鋼材の製造を得意としていて、独自の技術力でさまざまな形鋼を製造しています。

赤枠の部分が履帯

? スチールホイールはどうやってつくられるの?

「リム」と「ディスク」という部品を組み付けてホイールをつくっています

1 社内で会議



お客様の要望のもとに、製品の内容と打ち合わせします。

2 製品の設計



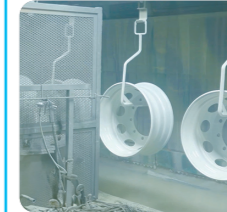
大きさ、デザイン、色などを決め、設計担当が設計図を作成します。

3 製造



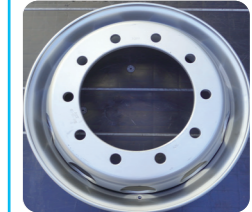
鋼材を円形にした「リム」と穴を開けた「ディスク」をつくり、組み付けます。

4 塗装



組み付けたホイールにサビ防止剤を塗って、塗料を吹き付けます。

5 検査・出荷



人の目や機械で製品を確認し、問題がなければ出荷します。

? エスティーゼエスSDGsなど、どんな取り組みをしているの?

環境への取り組みをはじめ地域の社会活動にも取り組んでいます!

子どもたちに食料品を寄付



私たちのグループでは、食べ物をムダにしないための「食品支援活動」に取り組んでいます。各拠点で、家にある余った食べ物を持ち寄る「フードドライブ」を行い、集まった食品を地域のフードバンクに届けています。こうした活動を通じて、食品ロスを減らし、地域の子どもの生活を支えています。

鉄を使った循環型リサイクル



工場や家庭から出た、いらなくなった建材(建物の材料)や自動車、家電製品などを、グループ会社で集めて金属の原料へとリサイクルしています。その中の「鉄」が、私たちの工場の「電気炉」という大きな炉で溶かされ、さまざまな鉄鋼製品へと再生されています。

働く人の声を聞いてみよう!

Q&A



自動車部品事業部
設計開発部
梅岡 佑弥さん

Q.どんな仕事をしていますか?

トラックやバスなどのスチールホイールの製品設計をしています。運転中にホイールが壊れると重大な事故につながるため、頑丈で壊れないものが求められます。その条件を満たしつつ、軽さを兼ね備えたホイールの設計に日々取り組んでいます。

Q.この仕事のやりがいとは?

私の設計したスチールホイールがバスやトラックに使用され、通勤や通学、荷物の運送など、さまざまな用途で活躍しているところを見ると、自分の仕事が役立っていると実感でき、やりがいを感じます。



自動車部品事業部
営業部
水野 克哉さん

Q.どんな仕事をしていますか?

営業としてお客様と信頼関係をつくり、どんなホイールが必要かを聞いて、最適な提案をします。製造部門や設計部門と協力して、お客様の希望に合ったホイールづくりに関わっています。

Q.この仕事のやりがいとは?

若い頃から大きなお金が動く仕事にかかわることで、責任の重さと同時に大きなやりがいを感じています。また、製造部門や設計部門の人たちが、何度も工夫してつくり上げた製品を、自信を持ってお客様にご提案できることも、営業としての大きな喜びです。